佐渡における植物観察記録６

渡辺洋子

在来植物

ヤマミズ *Pilea japonica* (Maxim.) Hand.-Mazz.　(いらくさ科)

石名官馬笠橋上流 230m (' 07 10 24) :渡辺洋子 ('07 IS-) [(小田①) 5738-23-32]

北見 (1963) にドンデン、県分布図集13集に白瀬、後尾の記録があるが、石名を追加。県の絶滅危惧種 (VU) である。

オオバセンキュウ *Angelica genuflexa* Nutt.ex Tom et A.Graly　[写真１]　(せり科)

両津: 加茂河内 冨月寺 20m: 渡辺洋子 ('07 ,IS-415238)　[5738-03-93]

７月に冨月寺で，土手や竹藪の縁に生えているのを確認し，９月の花の時期に写真に撮影したので，それを掲載する。これまで北見 (1963) が鷲崎に，県分布図集８集 (420頁) に秋津 加茂湖畔の記録があるが，上記加茂河内の記録を追加する。

アワゴケ *Callitriche japonica* Engelm. ex Hegelm　(あわごけ科)

両津: 下久知 正覚寺･正覚寺前の菊池さん宅 20m ('07 7/14)　[5738-03-67]

新穂: 北方 立蓮寺 36m 写真２ ('07 8/6)　[5738-03-14]

畑野: 長谷 長谷寺 130m 写真３ ('07 8/15)　[5638-73-63]

真野: 阿佛坊 妙宣寺 50m ('07 8/24)　[5638-73-60]

真野: 竹田 太運寺 70m ('07 8/24)　[5638-73-50]

小木: 小木 海潮寺 30m ('07 12/17) [5638-52-71]

北見 (1963) ,野田 (1969) による相川の記録があるが,2007年8月,中川清太郎氏と共に下久知で２ヶ所発見以来,新穂,畑野,真野,小木で見つかった。しかし,いずれも小佐渡であり，大佐渡側ではまだ見つかっていない。

アイナエ *Mitrasacme pygmaea* R.Br.　[写真４]　(まちん科)

真野:国分寺 国分寺跡 60m :IS- ('98 渡辺洋子)　[5638-72-59]

新潟県植物分布図集９集 (456頁) に県内３ヶ所の記録が載っているが,佐渡でも国分寺で1996年に発見した。その後,1998年には,メリケンカルカヤに一面被われ,絶滅したかと思ったが,今年立ち寄って見ると,ちょうど草刈りをしている最中だったが，刈り払われた後に,わずかながら残っていた。県では絶滅危惧種 (LP) である。

イヌタヌキモ *Utricularia australis* R.Br.　[写真５]　(たぬきも科)

金井：貝塚金井大和横谷 (陶芸園奥) 40m: 渡辺洋子 ('07 IS-415259)　[(両津) 5738-03-40]

7月25日にため池をタヌキモspが覆っていたが、10月21日に再度見に行き，殖芽が確認され、イヌタヌキモと判明した。

ミコシガヤ *Carex neurocarpa* Maxim.　[写真６]　(かやつりぐさ科)

両津：潟端諏訪神社 18m: 渡辺洋子 ('07 IS-415254)　[5738-03-64]

新潟県植物分布図集15集に佐渡の分布地点がないので追加する。今までも何度も通っている場所でであるが気づかず、2007年に確認した。最近移入されたものかどうかわからない。７月25日には、その辺り一帯刈払われていたが、種が熟した後なので、コンクリートに固められたりしなければ、生存していると思われる。本種は新潟県の絶滅危惧種 (VU) である。

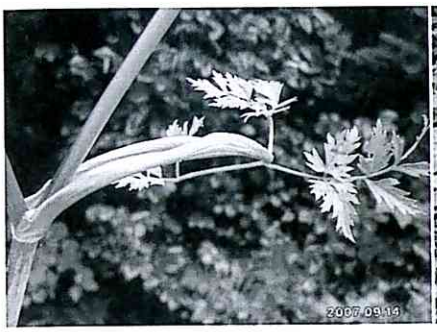
漂着植物

ハマナタマメ *Canavalia lineata* DC. またはナタマメ *C. gladiata* DC.　[写真７]　(まめ科)

羽茂：素浜海岸　[5638-62-32]

県植物分布図集９集455頁に1988年ハマナタマメが真野田切須海岸に漂着発芽したとの記録があり、今回素浜のものも、ハマナタマメだと思った。しかし、11月両津湊で路地栽培の長い実をつけたナタマメを見かけ、素浜のものに

はハマナタマメと葉質の薄めのナタマメと両方あったのではと疑問を持った。しかし、標本を採集しておらず、写真では断定できない。素浜では8株が匍匐。ただし9月15日から10月9日の間には、グンバイヒルガオ同様、蕾や花の形跡はなかった。



1-1　茎葉



写真2　アワゴケ



4-1　'07 10/9撮影

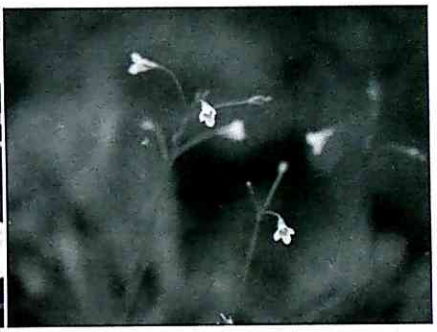


1-2　花序

写真1　オオバセンキュウ



写真3　アワゴケ



4-2　'96 9/18撮影

写真4　アイナエ

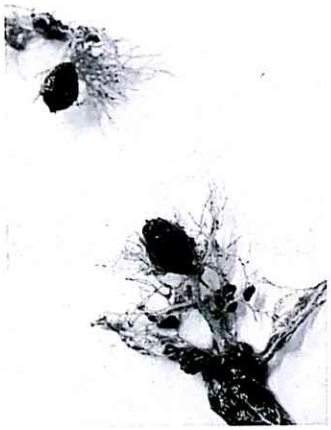


写真5　イヌタヌキモ（珠芽）



6-1　群落



6-2　花序（花穂）

写真6　ミコシガヤ

グンバイヒルガオ　*Ipomoea pes-caprae* (L.) Sweet　［写真8］　（ひるがお科）

羽茂・小木：素浜海岸［5638-62-32・62-22・62-42］

真野：椿尾　［5638-62-63］

佐和田：辰巳　［5638-72-77］

過去、10年に一度のわりあいで漂着発芽と言われたが、近年毎年のように見られ、2007年は素浜で40個体、また上記以外真野新町、相川入川でも発芽していると中川清太郎氏より伺った。素浜で最大の株は、南北に420cm、東西に220cmの方形の中に縦横につるを延ばし、24のブロックに分けて葉の枚数を数えると796枚だった（10月1日測定）。佐渡の記録中最大の株であったが、蕾をつけていなかった。その他にも大株の個体があったが、蕾をつけた様子はなかった。

ヨウサイ *Ipomoea aquatica* Forsk.　[写真9]　　(ひるがお科)

羽茂：素浜海岸　[5638-62-32]

9月15日はじめて見るつる植物が、砂浜の河口に打ちあげれた魚網等の上を匍匐していた。9月26日には蕾をいくつかつけており、9月30日ロート状のピンクの花を開き、花の中心部はいっそう濃いピンク色をしていた。午前に開花し、午後3時頃にしぼんだ。葉は広心臓形から、細いほこ形のものまで変化に富んでいた。熱帯アジア原産のヨウサイと思われる。ただし、はじめて見るものであり、資料も乏しく、それに近い別種かもしれない。2ケ所の細流の河口で20株ほど発芽し、匍匐。開花株は4株。

帰化植物

コゴメバオトギリ *Hypericum perforatum* L.var. *angustifolium* DC.　[写真10]　(おとぎりそう科)

両津: 上横山 35m　[5738-03-72]

欧州原産の帰化植物。国道沿いに咲いている黄色い花が、昨年から気になっていたが，確認したところコゴメバオトギリであった。

オニハマダイコン *Cakile edentula* Hook.　[写真11]　　(あぶらな科)

羽茂：素浜海岸　[5638-62-32]

欧州、北米原産の帰化植物。1981年北蒲原郡中条町の海岸ではじめて発見されたが、佐渡でも出現。中川清太郎氏に案内していただいた。

ヒロハホウキギク *Aster subulatus* Michx.var. *sandwicensis* A.G.Jones　[写真12]　(きく科)

真野:豊田 15m　[5638-72-46]

北米原産の帰化植物。十数年前，相川の埋立地に群生しているのを見たが，数年後には，姿を消してしまった。2007年，わずかであるが，国道添いに発生開花していたので，記載する。

セイバンモロコシ *Sorghum halepense* Pers.　[写真13]　　(いね科)

羽茂：素浜海岸　[5638-62-32]

欧州、地中海地域原産。

本報告では、中川清太郎氏の情報提供や現地共同調査によるところが大きい。同氏の御協力に謝意を表する。

参考図書

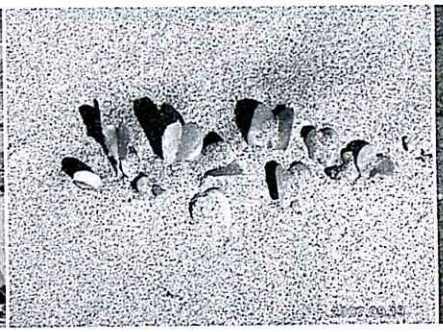
池上　義信（監）・石沢　進（編）新潟県植物分布図集　植物同好じんねんじょ会
北見　秀夫（1963）佐渡の植物　佐渡博物館研究報告第5集
清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七（2001）日本帰化植物写真図鑑　全国農村教育協会
牧野富太郎（1989）改訂増補　牧野新日本植物図鑑　北隆館
野田　光蔵（1969）越後の植物誌　II　新潟大学理学部生物学教室 植物分類学研究室
酒井　昭治（1987）新潟県の海岸の植物　北都
杉本　順一（1978）増補改訂　日本草本植物総検索誌　双子葉編　井上書店
渡辺　洋子（2003）佐渡島の植物 目録追加1 新潟県植物分布調査記録8:56,新津植物資料室





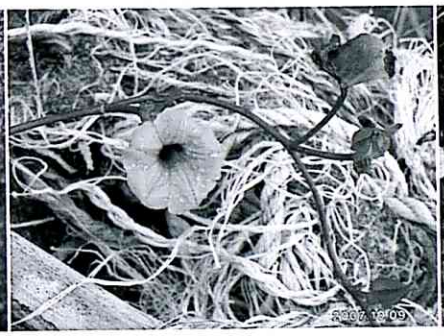
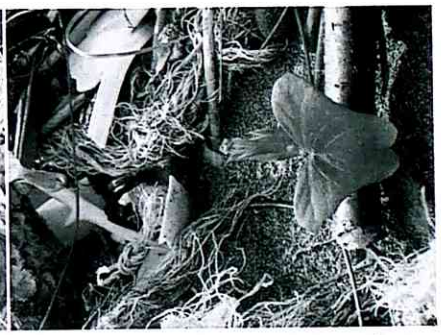
7-1　生育状態　　7-2　浜での成育　　7-3　茎葉（単葉と複葉）

写真7　ハマナタマメ（or ナタマメ）


8-1　最大の株　　8-2　強風で埋もれた株　　8-3　強風による被害（白い匍匐枝）

写真8　グンバイヒルガオ

9-1　開花初期（午前7時）　　9-2　満開（午前9時ころ）　　9-3　開花後期（午後3時ころ）

写真9　ヨウサイ



9-4　茎葉（多形の葉）




10-1　生育地　　10-2　満開の株

写真10　コゴメバオトギリ



11-1　群落

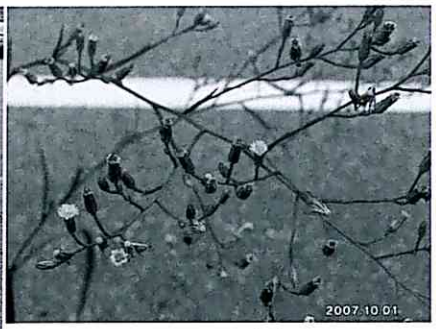


11-2　果実と花（中川清太郎氏撮影）

写真11　オニハマダイコン



12-1　生育地

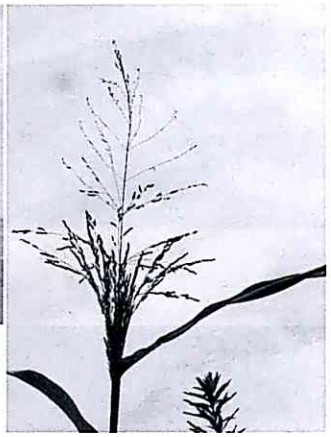


12-2　開花枝

写真12　ヒロハホウキギク



13-1　群生



13-2　花序

写真13　セイバンモロコシ

クズの木化（クズは木である？）

クズは「多年生のつる状草本,基部は木質になる」（牧野新日本植物図鑑 2000）と記録されている。新潟県では、これまで株もとが木質で固くなっていることに気づいていたが、茎（幹）が立ち上がるような個体を見たことがなかった。2008年２月中旬に佐渡市新穂地区正明寺で数メートル立ち上がって幹回り43cmの個体に遭遇したのは驚きであった。中川清太郎氏によると、佐渡ではこれまで２ヶ所ほどで見ているとのことである。温暖な佐渡の環境条件がクズの木化に影響しているとも推察されるが、木化している事例を多く知りたいものである。　（石沢　進）



クズの幹（中央黒色）



クズの冬芽